

専任教員の実務経験

氏名	資格・実務経験	教育科目	
藤本 英明	理学療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本理学療法士協会 会員	学びの技法 I 運動学 機能解剖学 理学療法研究法 基礎理学療法学演習 専門理学療法学演習	臨床評価学 I 臨床評価学 II 運動療法学 II 物理療法学 評価実習 臨床実習
神田 勝利	理学療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本理学療法士協会 会員	学びの技法 I 学びの技法 II 運動学 理学療法研究法 動作分析学 基礎理学療法学演習 専門理学療法学演習	臨床評価学 I 臨床評価学 II 運動療法学 I 運動療法学 II 中枢神経疾患理学療法学 評価実習 臨床実習
東海林 麻里子	理学療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本理学療法士協会 会員	学びの技法 I 運動学 理学療法研究法 基礎理学療法学演習 専門理学療法学演習 臨床評価学 I 臨床評価学 II	障害別評価学 症例演習 検査測定学演習 運動療法学 I 運動療法学 II 中枢神経疾患理学療法学 評価実習 臨床実習
高江 陽子	理学療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本理学療法士協会 会員	学びの技法 I 理学療法研究法 基礎理学療法学演習 専門理学療法学演習 臨床評価学 I 臨床評価学 II	運動療法学 II 日常生活活動学 生活環境学 高齢者理学療法学 評価実習 臨床実習
佐々木 聡	理学療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本理学療法士協会 会員	医療統計学 学びの技法 I 理学療法研究法 基礎理学療法学演習 専門理学療法学演習	臨床評価学 I 臨床評価学 II 義肢装具学 評価実習 臨床実習
白元 勇次郎	理学療法士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本理学療法士協会 会員	学びの技法 I 理学療法研究法 基礎理学療法学演習 専門理学療法学演習 臨床評価学 I 臨床評価学 II	理学療法評価学 検査測定学 難病・運動器疾患理学療法学 評価実習 臨床実習

授業科目及び単位・授業時数

専門課程(医療分野)

理学療法学科								
分野・区分	科目	規定 単位	計画 単位(時間)	1学年	2学年	3学年	実務	
				単位(時間)	単位(時間)	単位(時間)		
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	教育学	1 (15)	1(15)				
		物理学	1 (15)	1(15)				
		医療倫理学	1 (15)	1(15)				
		医療統計学	2 (30)	2(30)			○	
		医学英語	2 (30)	2(30)				
		人間発達学	2 (30)	2(30)				
		学びの技法 I	4 (60)	4(60)			○	
		学びの技法 II	4 (60)		4(60)		○	
小計		14	17 (255)	13(195)	4(60)			
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学	4 (60)	4(60)				
		運動学	4 (60)	4(60)			○	
		機能解剖学	6 (120)	6(120)			○	
		生理学	8 (120)	8(120)				
	疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進	臨床心理学	2 (30)	2(30)				
		病理学概論	2 (30)	2(30)				
		内科学	4 (60)	4(60)				
		神経内科学	4 (60)	4(60)				
		精神医学	2 (30)	2(30)			○	
		薬理学	2 (30)	2(30)				
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	運動器障害学	4 (60)		4(60)		○	
		整形外科学	2 (30)		2(30)			
	小計		30	48 (750)	42(660)	6(90)		
	専門分野	基礎理学療法学	理学療法研究法	4 (120)		4(120)		○
動作分析学			4 (60)		4(60)		○	
基礎理学療法学演習			5 (150)			5 (150)	○	
専門理学療法学演習			5 (150)			5 (150)	○	
理学療法管理学		理学療法管理学	2	2 (30)	2(30)			
理学療法評価学		臨床評価学 I	4 (120)		4(120)		○	
		臨床評価学 II	2 (60)		2(60)		○	
		理学療法評価学	2 (30)	2(30)			○	
		検査測定学	4 (60)	4(60)			○	
		障害別評価学	2 (30)		2(30)		○	
		症例演習	1 (30)		1(30)		○	
		検査測定学演習	1 (30)		1(30)		○	
理学療法治療学		運動療法学 I	4 (60)		4(60)		○	
		運動療法学 II	2 (60)		2(60)		○	
		物理療法学	3 (60)		3(60)		○	
		義肢装具学	4 (60)		4(60)		○	
		日常生活活動学	3 (60)		3(60)		○	
		中枢神経疾患理学療法学	2 (30)		2(30)		○	
		難病・運動器疾患理学療法学	2 (30)		2(30)		○	
		内部障害理学療法学	2 (30)		2(30)			
		小児理学療法学	2 (30)		2(30)			
地域理学療法学		生活環境学	2 (30)		2(30)			
		高齢者理学療法学	2 (30)		2(30)		○	
臨床実習	評価実習	20	3 (135)		3(135)		○	
	臨床実習		18 (810)			18(810)	○	
小計		57	85 (2295)	8 (120)	49(1065)	28(1110)		
合計		101	150 (3300)	63 (975)	59(1215)	28(1110)		

科目名： 教育学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 荒武 理

1単位

【授業概要】 「教育が必要な唯一の動物」とされる人間、その人間にとって教育の必要性和教育のもたらす意義と影響を学びつつ、人生における教育の重要性を認識させる。

【到達目標】 教育分野の多様性を理解させ、その実践的場面を通じた人間愛を学び、それを将来の職業や家庭生活を通じたあらゆる場面で実践的に活かせることを目標にした。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	教育概論・教育の語義と意味	荒武
2	人間と教育の必要性	荒武
3	西洋と日本の人間・教育観	荒武
4	家族関係と教育	荒武
5	少子高齢化時代の教育	荒武
6	学校・職場・地域社会の教育	荒武
7	コンピュータ社会と教育	荒武
8	現代教育の問題点と将来への展望	荒武
9	定期試験	荒武

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】 「教育原理」(ミネルヴァ書房)

【参考図書】 必要に応じてプリント配布

【評価基準】 定期試験80% 小レポート・授業態度20%

【授業概要】 理学療法に関わる物理法則を理解し、使い方を習得することによって、現象を原理的に理解し、活用する力を養う。

【到達目標】 物理学の基本的な法則の意味を理解し、活用できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	基本単位、三角関数	古川
2	速度、加速度、力	古川
3	運動方程式、力のモーメントのつり合い	古川
4	仕事とエネルギー、温度と熱	古川
5	波の性質	古川
6	電気回路、電力	古川
7	磁場、電磁波、放射線	古川
8	まとめと演習	古川
9	定期試験	古川

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】 「PT・OT ゼロからの物理学」(羊土社)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験70% 授業態度30%

【授業概要】

生命・医療倫理の基礎的知識を学習した上で、医療の進歩とともに生じてきた倫理的問題を検討する。

【到達目標】

将来、チーム医療の一員として倫理的問題に直面した際、その時点での「患者にとってより良い医療」とは何かを自ら考え、より良い解決方法を探求しないとけない。そのためには、この講義で、生命・医療倫理の基礎的知識を身につけ、倫理的問題の検討を通じて、その諸問題にまつわる多様な視点・論点を学び、自らの考えを言葉にしていけるよう、考察をして欲しい。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	生命倫理学・医療倫理学とは？	山口
2	インフォームド・コンセント	山口
3	生殖に関わる倫理	山口
4	脳死と臓器移植	山口
5	安楽死と尊厳死	山口
6	終末期医療に関わる倫理	山口
7	ケーススタディ	山口
8	まとめ	山口
9	定期試験	山口

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等を準備しておくこと(約1時間)。

復習：講義内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】 「はじめて出会う生命倫理」(有斐閣アルマ)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験60% レポート40%

【授業概要】

臨床研究を行ううえで研究法の理解はもとより取得したデータの特徴や様相を解析するために、統計学の基礎知識が必須となる。また、研究成果を臨床に生かす立場としても、根拠に基づいてリハビリテーションを实践するうえで研究報告を正しく解釈するためにも、統計学は必要な知識となる。パソコンを用い情報処理を行い統計学の基礎的な概念や情報リテラシーについて学ぶ。

【到達目標】

パソコンを用い情報処理に関する基礎的知識を習得し、アプリケーションを利用することを学ぶ。さらに、将来における実業務や研究活動に具体的練習問題を解きアプローチが出来るようになるとともに情報倫理を理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション、情報リテラシー①(情報セキュリティについて)	佐々木
2	情報リテラシー②(情報倫理について)	佐々木
3	統計学の基礎	佐々木
4	データの尺度、特性値	佐々木
5	グラフ、パソコンの仕組み	佐々木
6	Word、Excel、PowerPointの使い方①	佐々木
7	Word、Excel、PowerPointの使い方②	佐々木
8	Word、Excel、PowerPointの使い方③	佐々木
9	Word、Excel、PowerPointの使い方④	佐々木
10	推定と検定の基礎	佐々木
11	Rコマンドの使い方	佐々木
12	正規分布、正規性の検定	佐々木
13	差の検定(対応のあるt検定、ウィルコクソン符号付順位和検定)	佐々木
14	差の検定(対応のないt検定、マン・ホイットニーの検定)	佐々木
15	相関	佐々木
16	定期試験	佐々木

【授業外学修】

予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約30分)。
 復習：講義内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。パソコンを使用してみる(約1時間)。
 *この講義ではパソコンを使用します。マイクロソフトオフィス(Word、Excel、PowerPoint)を準備して下さい。

【教科書名】

「リハビリテーション統計学」(中山書店) 「4steps エクセル統計」(OMS出版)

【参考図書】

「大学生のための基礎情報処理」(共立出版)

【評価基準】

定期試験50% レポート30% 確認テスト20%

【実務経験】

理学療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

解剖学的に身体の全般(骨格、皮膚、筋肉、心臓、消化器系、神経系)や理学療法士に必要な英語を学習する。

【到達目標】

専門用語(医学英語)を覚え、理解する。あわせて病院での会話や表現を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション・人体各部の名称の英単語1	瀬戸口
2	人体各部の名称の英単語2	瀬戸口
3	人体各部の名称の英単語3	瀬戸口
4	人体各部の名称の英単語4	瀬戸口
5	英会話実践1	瀬戸口
6	医学・医療・リハビリテーションの基本英単語 1	川畑
7	医学・医療・リハビリテーションの基本英単語 2	川畑
8	医学・医療・リハビリテーションの基本英単語 3	川畑
9	医学・医療・リハビリテーションの基本英単語 4	川畑
10	英会話実践2	川畑
11	理学療法士に必要な基本英単語 1	山田
12	理学療法士に必要な基本英単語 2	山田
13	理学療法士に必要な基本英単語 3	山田
14	理学療法士に必要な基本英単語 4	山田
15	英会話実践3	山田

【授業外学修】

予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】

「音声と例文でおぼえる基本医療英語1000」(南雲堂)

【参考図書】

【評価基準】

レポート100%

【授業概要】 ヒトの発達について、発達段階に従ってそれぞれの特徴について概説していく。とくに変化のおおきい発達の初期から青年期までを取り上げる予定である。

【到達目標】 発達初期から青年期までの人間発達の各時期の特徴について説明することができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	ヒトの発達の特徴	木下
2	発達の様相／胎生期について	木下
3	新生児期の特徴	木下
4	アタッチメント①:親子関係の基盤	木下
5	アタッチメント②:愛着行動の発達と個人差	木下
6	乳児期における認知発達	木下
7	言語発達(おもに乳児期)	木下
8	幼児期における運動・認知の発達	木下
9	幼児期における社会性の発達	木下
10	児童期の特徴	木下
11	青年期の特徴:身体発達と社会的見方	木下
12	青年期の心理的発達:アイデンティティの問題	木下
13	発達障害と特別支援教育	木下
14	発達の要因:遺伝と環境／発達データの見方	木下
15	総まとめ	木下
16	定期試験	木下

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】 「生涯人間発達学」(三輪書店)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】

基本的な学習方法を学ぶとともに、医療人としての倫理観や感性を培う。また理学療法に関わる法律、関連職種の業務内容、理学療法学科で学ぶ講義の関連性を学習する。

【到達目標】

基本的な学習方法を確立とともに、医療人として必要とされるコミュニケーション能力やマナーを身につける。
また、介助法やバイタルサインなどの実技を通して医療人としての基本的な技術を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション	白元
2	なぜ・どのような理学療法士になりたいか 理学療法士の理解	白元
3	学習方法の確立、見学実習に向けて、在校生講話	白元
4	リハビリテーション関連職種について (医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・ケアマネージャー)	白元
5	リハビリテーション関連職種について ポスター作成	白元
6	見学実習 (近隣施設・病院へ見学実習)	学科全教員
7	バイタルサイン講義・演習 (血圧・脈拍測定)	白元
8	介助法 講義・演習① 基本動作・起居動作介助	白元
9	介助法 講義・演習② 移乗介助	白元
10	リハビリテーション関連職種について ポスター発表会	白元
11	国家試験の勉強方法	白元
12	学習の確立① 調べ学習	白元
13	学習の確立② 調べ学習	白元
14	学習の確立③ 調べ学習	白元
15	学習の確立④ 調べ学習	白元

【授業外学修】

予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】

「理学療法概論」(神菱文庫) 「PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド」(医学書院)
「新 イラストによる安全な介助のてびき」(医歯薬出版) 「驚くほど相手に伝わる学会発表の技術」(中山書店)

【参考図書】

【評価基準】

レポート80% ポスター発表20%

【実務経験】

理学療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

基本的な学習方法を学ぶとともに、介助体験等を通して、医療人としての倫理観や感性を培う。

【到達目標】

基本的な学習方法を確立とともに、介助体験等を通して、医療人としての資質を養う。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション、パソコン操作確認	白元
2	学習の確立① (問題演習)	白元
3	学習の確立② (調べ学習)	白元
4	学習の確立③ (シェア学習①)	白元
5	学習の確立④ (シェア学習②)	白元
6	介助体験実習 高齢者体験、車椅子介助	白元
7	学習の確立⑤ (問題演習)	白元
8	学習の確立⑥ (調べ学習)	白元
9	学習の確立⑦ (シェア学習①)	白元
10	学習の確立⑧ (シェア学習②)	白元
11	介助体験実習発表会 口述発表 (PowerPoint)	白元
12	学習の確立⑨ (問題演習)	白元
13	学習の確立⑩ (調べ学習)	白元
14	学習の確立⑪ (シェア学習①)	白元
15	学習の確立⑫ (シェア学習②)	白元

【授業外学修】

予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】

「理学療法概論」(神菱文庫) 「PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド」(医学書院)
「新 イラストによる安全な介助のてびき」(医歯薬出版) 「驚くほど相手に伝わる学会発表の技術」(中山書店)

【参考図書】

【評価基準】

レポート80% 口述発表20%

【実務経験】

理学療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 解剖学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 松井 竜太郎

通年 4単位

【授業概要】

人体の仕組みと成り立ちについて形態および機能的に学ぶ。

【到達目標】

人体の脈管系、消化器系、呼吸器系、生殖器系の各器官の名称を理解し、書くことができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	脈管系(心臓、肺循環と体循環)	松井
2	脈管系(動脈系と静脈系)	松井
3	脈管系(胎児循環)	松井
4	リンパ系、血球	松井
5	脈管系のまとめ	松井
6	消化器系(口腔、咽頭、食道、胃)	松井
7	消化器系(小腸、大腸)	松井
8	消化器系(肝臓、胆嚢、膵臓)	松井
9	消化器系のまとめ	松井
10	呼吸器系(鼻腔、口喉頭)	松井
11	呼吸器系(気管、気管支、肺)	松井
12	呼吸器系のまとめ	松井
13	生殖器系(男性生殖器)	松井
14	生殖器系(女性生殖器)	松井
15	生殖器系のまとめ	松井
16	定期試験	松井

【授業外学修】

予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】

「入門人体解剖学」(南江堂)

【参考図書】

【評価基準】

定期試験100%

科目名： 解剖学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 松井 竜太郎

【授業概要】

人体の仕組みと成り立ちについて形態および機能的に学ぶ。

【到達目標】

人体の脈管系、消化器系、呼吸器系、生殖器系の各器官の名称を理解し、書くことができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	内分泌系	松井
2	内分泌系のまとめ	松井
3	神経系(脳、脊髄)	松井
4	神経系(脳幹、小脳、大脳)	松井
5	神経系(脳の血管、脳室)	松井
6	神経系(脳神経、脊髄神経)	松井
7	神経系(自律神経、伝導路)	松井
8	神経系(伝導路)	松井
9	神経系のまとめ	松井
10	感覚器系(視覚器)	松井
11	感覚器系(聴覚平衡器)	松井
12	感覚器系(皮膚の構造と感覚器)	松井
13	感覚器系のまとめ	松井
14	発生学	松井
15	発生学のまとめ	松井
16	定期試験	松井

【授業外学修】

予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】

「入門人体解剖学」(南江堂)

【参考図書】

【評価基準】

定期試験100%

【授業概要】

骨・関節・筋の基本的な構造と機能、筋紡錘や腱紡錘などの受容器や伸張反射などを学ぶ。
てこなどの生体力学や運動学習についても学ぶ。

【到達目標】

骨・関節・筋の基本的な構造と機能を理解し、構造や動きなどがイメージできるようになる。
筋紡錘や腱紡錘などの受容器について学ぶことで、伸張反射などの反射の意義を理解する。
てこやモーメントなどについて学び、生体力学についての理解を深める。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	骨の機能・骨の構造・骨膜・軟骨などについて	藤本
2	骨の連結の種類・滑膜性連結の詳細について	藤本
3	関節の構成・分類・動きについて	藤本
4	筋の種類・構造について	藤本
5	筋紡錘・腱紡錘の構造と機能について	藤本
6	筋の収縮状態について	藤本
7	伸張反射・相反抑制・I b抑制などの脊髄反射について	藤本
8	運動力学の基礎(運動力学)、運動・動作・行為について	神田
9	運動力学の基礎(運動力学)、運動の形、運動の法則、重心	神田
10	安定性、力学的エネルギー、モーメント、てこの種類	神田
11	滑車と輪軸、運動イメージ、運動制御(フィードバックとフィードフォワード制御)	神田
12	運動学習、運動技能、運動技能(三相説)について	神田
13	反射・平衡反射について	神田
14	神経系について	神田
15	まとめ	神田
16	定期試験	藤本・神田

【授業外学修】

予習:授業の前日に、該当する教科書・資料をしっかりと熟読しておく(約1時間)。
復習:授業内容を確認し、配布した資料や教科書などの振り返り行うこと(約1時間)。

【教科書名】

「基礎運動学」(医歯薬出版) 「新版PT・OT・STのための解剖学」(廣川書店)

【参考図書】

【評価基準】

定期試験 100%

【実務経験】

理学療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

運動学は人の身体運動を科学的に究明する学問である。この講義では基本的動作能力の要素となる姿勢・歩行について、姿勢制御、歩行の特徴、一般的な異常歩行の種類や特徴、走行、身体運動を支えるエネルギー代謝について学ぶ。グループにて行う演習では臨床実習に向けた態度や技能、社会的なルールやマナーを守る大切さを学ぶ。

【到達目標】

- ・姿勢の安定性、歩行・走行、エネルギー代謝に関する基本的用語や特徴について説明することができる。
- ・姿勢の安定性や歩行の代表的な計測方法については実施することができる。
- ・グループワークにおける役割確認や自身の意見をしっかりと伝えることで、協調性やコミュニケーション能力を向上させることができる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	講義概要オリエンテーション、運動学と理学療法、姿勢の記載と類型	東海林
2	姿勢安定性:重心、支持基底面	東海林
3	姿勢安定性:筋活動	東海林
4	姿勢安定性:姿勢制御	東海林
5	姿勢評価:バランス安定性テスト、立位姿勢の異常	東海林
6	第1回～第5回講義の振り返り学習	東海林
7	歩行周期	東海林
8	歩行の運動学的分析:重心軌跡と骨盤の動き	東海林
9	歩行の運動学的分析:下肢関節運動	東海林
10	歩行の運動学的分析:下肢関節モーメント	東海林
11	歩行の運動学的分析:下肢筋活動	東海林
12	歩行時のエネルギー代謝、小児の歩行、高齢者の歩行、歩行の神経機構	東海林
13	異常歩行	東海林
14	異常歩行、走行	東海林
15	栄養とエネルギー代謝	東海林
16	定期試験	東海林

【授業外学修】

予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかりと読んでおくこと(約30分)。
復習:授業内容を整理し、理解する振り返り学習としてまとめノート作成を行うこと(約1時間)。

【教科書名】

「基礎運動学」(医歯薬出版)

【参考図書】

「運動学テキスト」(南江堂)「運動学」(羊土社)「運動学」(中山書店)「運動学実習」(中山書店)

【評価基準】

定期試験75% 問題演習、実技演習25% レポート・小テスト・授業態度

【実務経験】

理学療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

骨については突起や窪みの意味を理解する。骨の連結については、関節面の形や靭帯の機能を理解する。

【到達目標】

骨の突起や窪みについて説明できる。骨を立体的にイメージでき、体表よりランドマークとなる部位の触察とマーキングができる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	身体の部位の名称について、身体の面・軸について	藤本
2	屈曲、伸展、外転、内転、回旋などの運動方向について	藤本
3	頭蓋・椎骨の突起や窪み、名称について	藤本
4	頭蓋・頸椎・胸椎・腰椎の関節構造について	藤本
5	頭蓋・椎骨について、関節面の形や靭帯の付着部位について	藤本
6	頭蓋・頸椎・胸椎・腰椎の動きについて	藤本
7	上肢帯・上肢の骨の突起や窪み、名称について	藤本
8	上肢帯・上肢の関節の関節構造について	藤本
9	上肢帯・上肢の骨について、関節面の形や靭帯の付着部位について	藤本
10	上肢帯・上肢の関節の動きについて	藤本
11	下肢帯・下肢の骨の突起や窪み、名称について	藤本
12	下肢帯・下肢の関節の関節構造について	藤本
13	下肢帯・下肢の骨について、関節面の形や靭帯の付着部位について	藤本
14	下肢帯・下肢の関節の動きについて	藤本
15	頸椎・胸椎・腰椎の骨について、形の理解を深めるために分離標本を用いてスケッチを行う	藤本
16	頸椎・胸椎・腰椎の関節について、動きの理解を深めるために分離標本を用いてスケッチを行う	藤本
17	上肢帯・上肢の骨について、形の理解を深めるために分離標本を用いてスケッチを行う	藤本
18	上肢帯・上肢の関節について、動きの理解を深めるために分離標本を用いてスケッチを行う	藤本
19	下肢帯・下肢の骨について、形の理解を深めるために分離標本を用いてスケッチを行う	藤本
20	下肢帯・下肢の関節について、動きの理解を深めるために分離標本を用いてスケッチを行う	藤本
21	支配神経、髄節レベルについて	藤本
22	支配神経、髄節レベルと支配筋との関係について	藤本
23	関節構造と動きについて（関節標本を用いて）	藤本
24	体表より関節裂隙の触診とマーキングを行う（上肢）	藤本
25	体表より骨のランドマークとなる部位の触察とマーキングを行う	藤本
26	体表より関節裂隙の触診とマーキングを行う（体幹・下肢）	藤本
27	僧帽筋・胸鎖乳突筋について、動き・起始停止・支配神経・髄節レベルの理解をおこなう	藤本
28	肩甲挙筋・菱形筋について、動き・起始停止・支配神経・髄節レベルの理解をおこなう	藤本
29	棘上筋・棘下筋・小円筋について、動き・起始停止・支配神経・髄節レベルの理解をおこなう	藤本
30	大円筋・広背筋について、動き・起始停止・支配神経・髄節レベルの理解をおこなう	藤本
31	定期試験	藤本

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと（約1時間）。

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと（約1時間）。

【教科書名】 「新版PT・OT・STのための解剖学」（廣川書店） 「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系」（医学書院）
「骨格筋系のキネオソロジー」（医歯薬出版）

【参考図書】

【評価基準】 定期試験50% 小テスト30% レポート20%

【実務経験】 理学療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

骨格筋の作用・起始・停止・支配神経・髄節レベルについて理解する。各骨格筋の位置関係を理解する。

【到達目標】

骨格筋の作用・起始・停止・支配神経・髄節レベルを説明でき、表層の骨格筋については体表よりマーキングできる。
自分自身の体で骨格筋の動きを表現できる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	肩甲下筋・前鋸筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
2	三角筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
3	上腕三頭筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
4	上腕筋・上腕二頭筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
5	前腕伸筋群の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
6	前腕伸筋群の起始、停止、作用、支配神経について②	藤本
7	前腕屈筋群の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
8	前腕屈筋群の起始、停止、作用、支配神経について②	藤本
9	大腿筋膜張筋・縫工筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
10	大腿四頭筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
11	ハムストリングスの起始、停止、作用、支配神経について	藤本
12	大腿内転筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
13	下腿前面の筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
14	下腿後面の筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
15	背部の筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
16	腰部の筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
17	胸筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
18	腹筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
19	殿筋の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
20	股関節外旋筋群の起始、停止、作用、支配神経について	藤本
21	上肢帯の筋の触察	藤本
22	上腕の筋の触察	藤本
23	前腕の筋の触察	藤本
24	手の筋の触察	藤本
25	下肢帯の筋の触察	藤本
26	体幹の筋の触察	藤本
27	大腿の筋の触察	藤本
28	下腿の筋の触察	藤本
29	実技試験	藤本
30	実技試験	藤本
31	呼吸筋について	藤本
32	顔面の筋について	藤本

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと（約1時間）。
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと（約1時間）。

【教科書名】 「新版PT・OT・STのための解剖学」（廣川書店）「骨格筋の形と触察法」（大峰閣）

【参考図書】

【評価基準】 小テスト50% レポート10% 実技試験40%

【実務経験】 理学療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

生理学は生体の機能とそのメカニズムを探究する学問である。本科目の目指すところは生体を構成する分子、細胞、組織、器官の各レベルでの機能を解明し、調和のとれた個体の生命現象と生体恒常性の機序を明らかにすることにある。生理学では、初めに生体構成の基礎となる細胞の構造と機能について学び、その後神経及び筋肉の基本的機能を理解し、神経系、感覚器系、内分泌系の各器官系単位でのその構造と機能を理解する。

【到達目標】

生理学では、単に生理学用語を覚えるだけでなく、その意味を理解し、生体の機能を説明できることを目標とする。常に「なぜだろう?」という疑問をもって、様々な視点から洞察を加える習慣を身につける。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	生理学の基礎(生理学とは、細胞の機能的構造)	田島
2	生理学の基礎(細胞膜を介する物質の移動:受動輸送と能動輸送)	田島
3	神経の基本的機能(神経細胞の形態、静止電位・活動電位)	田島
4	神経の基本的機能(イオンチャンネル、興奮の伝導)	田島
5	神経の基本的機能(興奮の伝達、シナプス)	田島
6	筋肉の基本的機能(骨格筋の構造、筋収縮の仕組み)	田島
7	筋肉の基本的機能(興奮-収縮連関)	田島
8	筋肉の基本的機能(筋収縮のエネルギー、平滑筋、心筋)	田島
9	神経系の機能(反射と反射弓、脳-脊髄神経系)	田島
10	神経系の構成(自律神経系と内臓機能:伝達物質・受容体)	田島
11	神経系の機能(自律神経系と内臓機能:内臓反射)	田島
12	神経系の機能(体性神経系と運動機能:骨格筋と体性反射)	田島
13	神経系の機能(体性神経系と運動機能:脊髄と脳幹)	田島
14	神経系の機能(体性神経系と運動機能:小脳・大脳基底核)	田島
15	神経系の機能(体性神経系と運動機能:大脳皮質)	田島
16	神経系の機能(中枢神経系の高次機能)	田島
17	神経系の機能(中枢神経系の高次機能)	田島
18	神経系の機能(中枢神経系の高次機能)	田島
19	感覚の生理(感覚の一般的性質)	田島
20	感覚の生理(視覚)	田島
21	感覚の生理(聴覚、前庭感覚)	田島
22	感覚の生理(味覚、嗅覚)	田島
23	感覚の生理(体性感覚、内臓感覚)	田島
24	内分泌系の機能(ホルモンの一般的性質)	田島
25	内分泌系の機能(ホルモンの産生と分泌)	田島
26	内分泌系の機能(視床下部、下垂体前葉ホルモン)	田島
27	内分泌系の機能(下垂体後葉、甲状腺ホルモン)	田島
28	内分泌系の機能(骨代謝とホルモン)	田島
29	内分泌系の機能(副腎皮質、副腎髄質)	田島
30	内分泌系の機能(膵臓、糖代謝の調節)	田島
31	定期試験	田島

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】 「シンプル生理学」(南江堂) 「新版 運動・からだ図解 生理学の基本」(マイナビ出版)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験(100%)

【授業概要】

生理学は、健康や病気を理解するための基礎的学問であり、細胞や器官の機能を解明し、調和のとれた個体の生命現象と生体恒常性の機序を明らかにする学問である。生理学では、生殖機能、栄養と代謝、消化器系、循環器系、呼吸器系、尿生成と体液調節系について各器官系単位で構造と機能を理解する。生理学(前期)で学んだ神経系と内分泌系という二大調節系と関連付けて学ぶ。

【到達目標】

生理学(後期)では、単に生理学用語を覚えるだけではなく、各器官系との関連性を考慮に入れた生体機能の説明ができることを目標とする。常に「なぜだろう?」という疑問を持って、様々な視点から洞察を加える習慣を身につける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	生殖機能(性染色体、性分化)	田島
2	生殖機能(性ホルモンと生殖機能)	田島
3	生殖機能(妊娠と分娩、生殖機能の加齢変化)	田島
4	栄養と代謝(代謝)	田島
5	栄養と代謝(中間代謝、エネルギー代謝)	田島
6	消化と吸収(消化器系の働き、消化管運動とその調節)	田島
7	消化と吸収(消化液の分泌機序)	田島
8	消化と吸収(消化、吸収)	田島
9	消化と吸収(消化管ホルモン、肝臓と胆道系)	田島
10	血液の生理(血液の機能、血液の組成)	田島
11	血液の生理(血液型、止血機構)	田島
12	血液の生理(生体防御機構)	田島
13	循環の生理(概説、心臓の構造、心筋の特性)	田島
14	循環の生理(心筋の基本的性質、心電図)	田島
15	循環の生理(心臓のポンプ機能)	田島
16	循環の生理(血管、リンパ管系)	田島
17	循環の生理(循環の神経性調節)	田島
18	循環の生理(循環の液性調節)	田島
19	循環の生理(局所循環、脳脊髄液循環)	田島
20	呼吸の生理(呼吸器系の構造と機能、呼吸運動)	田島
21	呼吸の生理(酸素の運搬、二酸化炭素の運搬)	田島
22	呼吸の生理(呼吸運動の調節、肺換気量の調節)	田島
23	呼吸の生理(呼吸の異常、人工呼吸)	田島
24	尿の生成と排泄(腎臓の構造と機能)	田島
25	尿の生成と排泄(糸球体濾過、クリアランス)	田島
26	尿の生成と排泄(尿細管機能、排尿)	田島
27	体液とその調節(体液のイオン組成と恒常性維持機能)	田島
28	体液とその調節(水素イオン濃度、アシドーシス、アルカローシス)	田島
29	体温とその調節(体温の生理的変動、体熱産生と熱放散)	田島
30	体温とその調節(体温調節機構、うつ熱と発熱)	田島
31	定期試験	田島

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】 「シンプル生理学」(南江堂) 「新版 運動・からだ図解 生理学の基本」(マイナビ出版)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験(100%)

【授業概要】

臨床心理学の視点から基本的な人の心の理解と支援の在り方について紹介する。また国家試験対策として、臨床心理学に関する演習問題に取り組む。

【到達目標】

臨床心理学の知見を概観しながら、人の心を科学的に理解する視点を持てるようになることを目指す。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション	篠原
2	臨床心理学とは	篠原
3	臨床心理学的アセスメント① 発達および知能検査	篠原
4	臨床心理学的アセスメント② 質問紙法	篠原
5	臨床心理学的アセスメント③ 投影法	篠原
6	臨床心理面接技法① 精神分析療法	篠原
7	臨床心理面接技法② クライアント中心療法	篠原
8	臨床心理面接技法③ 行動療法・認知療法・認知行動療法	篠原
9	その他の心理療法	篠原
10	発達に関する障害の理解と支援	篠原
11	うつ理解と支援	篠原
12	身体の不調に関する心理的問題の理解と支援	篠原
13	パーソナリティ障害の理解と支援	篠原
14	リハビリテーション現場での心理的支援の実際	篠原
15	まとめ	篠原
16	定期試験	篠原

【授業外学修】

予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】

「リハベーシック心理学・臨床心理学」(医歯薬出版) および 配布資料

【参考書名】

配付資料

【評価基準】

定期試験90%

授業態度10%：①忘れ物(教科書・配付資料など)なく授業へ参加 ②私語や居眠りなどなく授業に参加

【授業概要】 医療に従事するにあたり必要な病理学概論について解説する。

【到達目標】 日本人の死因として重要な病気、罹患率の高い病気、病気のメカニズムについて知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	イントロダクション	濱田
2	病理学の領域	濱田
3	細胞・組織とその障害①	濱田
4	細胞・組織とその障害②	濱田
5	再生と修復	濱田
6	循環障害	濱田
7	炎症	濱田
8	免疫とアレルギー	濱田
9	感染症	濱田
10	代謝異常	濱田
11	老化と老年学	濱田
12	新生児の病理	濱田
13	先天異常	濱田
14	腫瘍	濱田
15	生命の危機	濱田
16	定期試験	濱田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】 「カラーで学べる病理学」(ヌーヴェルヒロカワ)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】

各疾患を学ぶ。問題集を使用することもあるので、その際にはあてて答えてもらうこともある。

【到達目標】

各疾患の症候とその病態生理、治療法、予後などを理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	内科学とは	赤坂
2	内科的診断と治療の実際	赤坂
3	症候学	赤坂
4	循環器疾患①	赤坂
5	循環器疾患②	赤坂
6	循環器疾患③	赤坂
7	呼吸器疾患①	赤坂
8	呼吸器疾患②	赤坂
9	消化器疾患①	赤坂
10	消化器疾患②	赤坂
11	肝胆膵疾患①	赤坂
12	肝胆膵疾患②	赤坂
13	肝胆膵疾患③	赤坂
14	血液・造血器疾患①	赤坂
15	血液・造血器疾患②	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】

予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】

標準理学療法学・作業療法学 内科学(医学書院)

【参考図書】

PT・OT基礎から学ぶ内科学ノート(医歯薬出版株式会社)

【評価基準】

定期試験90% 授業態度10%

【授業概要】

各疾患を学ぶ。問題集を使用することもあるので、その際にはあてて答えてもらうこともある。

【到達目標】

各疾患の症候とその病態生理、治療法、予後などを理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	栄養学①	赤坂
2	栄養学②	赤坂
3	栄養学③	赤坂
4	代謝性疾患①	赤坂
5	代謝性疾患②	赤坂
6	代謝性疾患③	赤坂
7	内分泌疾患①	赤坂
8	内分泌疾患②	赤坂
9	腎・泌尿器疾患①	赤坂
10	腎・泌尿器疾患②	赤坂
11	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症①	赤坂
12	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症②	赤坂
13	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症③	赤坂
14	感染症①	赤坂
15	感染症②	赤坂
16	定期試験	赤坂

【授業外学修】

予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】

標準理学療法学・作業療法学 内科学(医学書院)

【参考図書】

PT・OT基礎から学ぶ内科学ノート(医歯薬出版株式会社)

【評価基準】

定期試験90% 授業態度10%

科目名： 神経内科学(前期)

授業形態： 講義

担当教員： 横山幸三

通年 4単位

【授業概要】

リハビリテーション医療の対象となる神経疾患の病因、病態がもたらす機能障害や能力障害と、それらに対する治療法を理解する。

【到達目標】

リハビリテーションカンファレンスで他の職種と情報交換を行う際に求められる神経疾患に対する医学的知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	神経症候(高次脳機能障害、失語)	横山
2	神経症候(失認症、失行)	横山
3	神経症候(認知症)	横山
4	神経症候(運動失調)	横山
5	神経症候(意識障害)	横山
6	神経症候(嚥下障害、構音障害)	横山
7	神経症候(錐体路徴候)	横山
8	神経症候(錐体外路徴候)	横山
9	神経症候(感覚障害)	横山
10	神経症候(脳圧亢進・脳ヘルニア)	横山
11	神経症候(神経因性排尿障害)	横山
12	神経症候(末梢神経徴候)	横山
13	脳血管障害(分類)	横山
14	脳血管障害(症状、治療法)	横山
15	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
16	定期試験	横山

【授業外学修】

予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】

「PT・OT基礎から学ぶ 神経内科学ノート」(医歯薬出版社) 「病気がみえる Vol.7 脳・神経」(メディックメディア)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 神経内科学(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 横山幸三

【授業概要】

リハビリテーション医療の対象となる神経疾患の病因、病態がもたらす機能障害や能力障害と、それらに対する治療法を理解する。

【到達目標】

リハビリテーションカンファレンスで他の職種と情報交換を行う際に求められる神経疾患に対する医学的知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	中枢神経変性疾患(皮質・基底核)	横山
2	中枢神経変性疾患(脊髄小脳・脊髄)	横山
3	中枢神経変性疾患(中枢神経)	横山
4	中枢神経変性疾患(末梢神経)	横山
5	脳腫瘍(総論)	横山
6	脳腫瘍(各論)	横山
7	末梢神経障害(概念と分類)	横山
8	末梢神経障害(末梢性ニューロパシー)	横山
9	筋原性筋委縮疾患(筋ジストロフィー①)	横山
10	筋原性筋委縮疾患(筋ジストロフィー②)	横山
11	神経感染症疾患(総論)	横山
12	神経感染症疾患(各論)	横山
13	小児神経疾患	横山
14	神経疾患合併症	横山
15	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
16	定期試験	横山

【授業外学修】

予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】

「PT・OT基礎から学ぶ 神経内科学ノート」(医歯薬出版社) 「病気がみえる Vol.7 脳・神経」(メディックメディア)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】

精神医学の概念・歴史並びに精神機能の障害と精神症状について学ぶ。
 精神疾患(器質性精神障害, 統合失調症, アルコール関連, 薬物関連, 気分障害, 神経症性障害 他)について特性・症状学ぶ。
 精神障害の治療並びに精神科保健医療等について学ぶ。

【到達目標】

精神医学の概念・歴史を理解し修得する。
 基本の精神機能・精神症状並びに精神疾患の特性・症状を理解し修得する。
 精神障害の治療・精神科保健医療・メンタルヘルスを理解し修得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	精神医学概念・精神医学の歴史, 精神障害の成因と分類, 精神機能の障害と精神状態①	園屋
2	精神機能の障害と精神状態②	園屋
3	精神機能の障害と精神状態③	園屋
4	統合失調症①	園屋
5	統合失調症②	園屋
6	アルコール関連	園屋
7	薬物関連	園屋
8	気分障害①	園屋
9	気分障害②	園屋
10	神経症性障害①	園屋
11	神経症性障害②	園屋
12	生理的障害および身体的要因に関連した障害	園屋
13	パーソナリティ障害, コンサルテーション・リエゾン精神医学,	園屋
14	精神障害の治療とリハビリテーション, 精神保健医療とメンタルヘルス	園屋
15	総まとめ	園屋
16	定期試験	園屋

【授業外学修】 予習: 講義に臨む前に, 該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習: 授業内容を整理し, 理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】 「標準理学療法学・作業療法学 精神医学」(医学書院)

【参考図書】 「現代臨床精神医学」(金原出版)

【評価基準】 定期試験 75% 小テスト 20% レポート 5%

【実務経験】 作業療法士, 病院における臨床5年以上, 週1回学外臨床参加

【授業概要】

薬理学は、病気の治療、予防および診断に対して広範囲な医学分野と密接に関連した学問であるため、豊富な図解と解説の教科書を用いて、薬の基本的な作用メカニズム(薬理学)について分かりやすく解説する。

【到達目標】

薬理学は、自分に縁のない難しい学問と捉えるのではなく、日常生活において最も身近な学問の一つであることを理解する。これまでの薬に対する認識を一新し、さらに薬に対する興味・関心度を高める。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	・薬(薬剤)に対する意識	宮下
2	・薬はどのように効いているのか・薬の運命	宮下
3	・剤型のいろいろ・薬の正しい飲み方・危険な薬	宮下
4	・薬の用量・薬で起こる困った問題	宮下
5	・麻酔薬・睡眠薬・解熱鎮痛薬	宮下
6	・向精神薬・アルコールの作用・抗てんかん薬	宮下
7	・抗パーキンソン病薬・自律神経作用薬・筋弛緩薬	宮下
8	・消化器に作用する薬	宮下
9	・心臓に作用する薬・動脈硬化の予防・抗高脂血症薬	宮下
10	・血圧を下げる薬	宮下
11	・呼吸器に作用する薬	宮下
12	・ホルモン療法	宮下
13	・代謝性医薬品	宮下
14	・抗炎症薬・化学療法薬	宮下
15	・演習問題	宮下
16	・定期試験	宮下

【授業外学修】

予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。
 復習:講義内容を整理し理解する(理解できない場合は、次回講義の際に必ず質問すること)。

【教科書名】

「新版 超図解 薬はなぜ効くか 医師・看護師・薬剤師へ」(講談社)

【参考図書】

【評価基準】

定期試験100%

【授業概要】

理学療法士は理学療法を提供するだけでなく、地域住民とともに住みよい社会を作る一員としての役割を担い、その中で理学療法士の専門性を発揮する事が重要。新たな地域社会・住みやすい未来を構築するために、保健医療福祉の機能と構造を学び専門職として地域生活までの包括的・継続的サービス提供と連携について理解していく。地域生活を送る上での困難を抱えた人に対する支援について社会的背景との関連において理解し、保健医療福祉における関連する法律、国の施策、経済基盤との関連や専門職としての役割・機能を学ぶ。

【到達目標】

1. わが国における、保険医療福祉の現状と課題について包括的に理解できる。
2. 保険・医療・介護・福祉制度と制度に基づくサービスの理解、各専門職の役割とその法的根拠を理解できる。
3. 地域リハビリテーションの展開に必要な知識・技術や多職種間の連携や協働への考え方や方法ができる。
4. 地域社会での理学療法士の役割や機能を知り、新たな地域社会・住みやすい未来を仲間とともに考えることができる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション 総論：地域リハビリテーションの概念	山崎
2	総論：地域理学療法概念	山崎
3	地域リハビリテーションの関連制度と関連法規	山崎
4	住環境と福祉用具①	山崎
5	住環境と福祉用具②	山崎
6	地域におけるリスクマネジメント	山崎
7	地域リハビリテーションプロセス	山崎
8	地域理学療法の実際：訪問系理学療法	山崎
9	地域理学療法の実際：通所系理学療法	山崎
10	地域理学療法の実際：施設系理学療法	山崎
11	地域理学療法の実際：終末期における理学療法	山崎
12	予防分野のリハビリテーション	山崎
13	行政における療法士の役割・地域の防災と災害支援	山崎
14	地域での起業と社会貢献	山崎
15	全体のまとめ・振り返り	山崎
16	定期試験	山崎

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んで、分からない言葉については簡単に調べておくこと。移り変わる。公衆保健や保健医療行政システムへの関心をもって、新聞や文献等にも興味をもって接しておくこと（約2時間）。

復習：授業内容を整理し、第3者に簡単に伝える事ができるくらいに振り返り理解しておくこと（約1時間）。

【教科書名】 「地域リハビリテーション学」(羊土社)

【参考図書】 「ビジュアルレクチャー 地域理学療法」(医歯薬出版株式会社) 「Crosslink 地域理学療法学」(MEDICAL VIEW)

その他：厚生労働省やインターネットで配信する様々な審議会での参考資料など授業資料としてよく使用する書籍

【評価基準】 定期試験 100%

【その他】 必要に応じて内容や順番が変更する場合があります。状況に応じて適宜体験や課題も行います。

【授業概要】

医療に携わることをめざす時に、医療の歴史、医療観の変遷を知り、現代医療の現状と問題点を明らかにして、日本のめざす医療システムを理解する。

【到達目標】

健康や障害の概念、いのちの尊厳を学び、外来診療のシステムに対する基本的知識の習得に努める。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	いのちと健康	横山
2	医療的ケアと管理	横山
3	現代医学の起源	横山
4	医療観の移り変わり	横山
5	外来診療のプロセス	横山
6	障害者のノーマライゼーション	横山
7	現代医療の最前線	横山
8	医原病という考え方	横山
9	インフォームド・コンセント	横山
10	臨床疫学	横山
11	プライマリーケアの新たな展開	横山
12	在宅医療	横山
13	情報化社会と医療	横山
14	地域包括医療システム	横山
15	まとめ、質疑応答、演習問題解説	横山
16	定期試験	横山

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】 「系統看護学講座 別巻 総合医療論」(医学書院)

【参考図書】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】

理学療法士の歴史や法令、医療保険制度・介護保険制度を理解し、職場管理・理学療法教育に必要な能力を培う。

【到達目標】

理学療法の歴史・法令や、理学療法士としての管理や運営を担うための幅広い内容を理解する。理学療法士の職域の拡大につながる分野を知る。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	理学療法士概念と歴史、適性と資質、子育てとの両立	名嘉真
2	ロボットスーツと未来の理学療法	名嘉真
3	理学療法士を取り巻く法令	芦谷
4	訪問リハビリテーションと介護予防	芦谷
5	医療事故とリスクマネジメント、個人情報管理の重要性	竹内
6	整形外科とスポーツ分野の理学療法	竹内
7	理学療法の学問的体系化と研究、大学院との両立	宇都
8	糖尿病の理学療法	宇都
9	管理運営（職場における教育やリスク管理他）	村脇
10	有料老人ホームにおける理学療法士の役割	村脇
11	身分法と職能団体	福永
12	理学療法士協会と理学療法士連盟	福永
13	職域の拡大①	田中
14	ウイメンズヘルス、産業理学療法、女性活躍への期待	田中
15	職域の拡大②	野沢
16	健康管理、起業と開業	野沢

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと（約1時間）。

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと（約1時間）。

【教科書名】 「理学療法管理学」（南江堂） 「理学療法概論」（神菱文庫）

【参考図書】

【評価基準】 レポート100%

【授業概要】

理学療法における各検査の意義・目的・過程・対象・評価法の種類・記録・実施上の留意点などについて学び、理学療法実施時の患者状態把握に役立てる。

【到達目標】

適切な検査・測定に向けて、各検査の意義・目的・過程・対象・評価法の種類・記録・実施上の留意点などを習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション、総論①(障害とは、評価の位置づけ、評価の構成要素、評価の進め方など)	白元
2	総論②(障害とは、評価の位置づけ、評価の構成要素、評価の進め方など)	白元
3	日常生活活動評価(ADL評価の範囲、評価の目的、評価項目、評価尺度、評価法とその特徴など)	白元
4	形態測定(長育、量育、周育、体格指数など)	白元
5	関節可動域測定(目的、ROM制限因子、測定時の留意点、測定方法、測定手順と評価など)	白元
6	筋力検査(筋力について、測定の基本原理、検査の実際、機器を用いた測定など)	白元
7	感覚検査(感覚とは、意義・目的、感覚の種類、伝導経路、検査の留意点、検査法など)	白元
8	痛み(痛みについて、検査の一般的手順)	白元
9	反射・反応検査(深部反射、表在反射、病的反射、姿勢反射・反応など)	白元
10	問題演習	白元
11	筋緊張検査(筋緊張とは、筋緊張の異常、検査方法など)	白元
12	協調性検査(協調運動とは、協調運動障害、運動失調とは、運動失調の分類、検査の実際など)	白元
13	高次脳機能検査(定義と概要、評価総論、評価の実際、精神機能の概要と評価)、意識障害(意識とは、覚醒とは、程度分類)	白元
14	片麻痺機能検査(片麻痺の運動障害の特徴、運動機能に関する評価など)	白元
15	整形外科的検査(脊柱、上肢、下肢に関する検査法)	白元

【授業外学修】

予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】

「理学療法評価法」(神陵文庫)

「PT・OTのための測定評価1 ROM測定」(三輪書店)

「PT・OTのための測定評価2 形態測定・感覚検査・反射検査」(三輪書店)

「PT・OTのための測定評価3 MMT -頭部・頸部・上肢-」(三輪書店)

「PT・OTのための測定評価4 MMT -体幹・下肢-」(三輪書店)

「病気がみえる 脳・神経」(メディックメディア)

【参考図書】

【評価基準】

小テスト50% 問題演習35% レポート15%

【実務経験】

理学療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】

理学療法評価における形態計測、筋力、関節可動域、感覚、反射、筋緊張などの検査・測定手技を学び、理学療法実施時の患者状態把握に役立てる。

【到達目標】

理学療法評価における形態計測、筋力、関節可動域、感覚、反射、筋緊張などの検査・測定が適切に実施できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	形態測定(四肢長(上肢長・上腕長・前腕長・手長・臍下長・下肢長・大腿長・下腿長・足長))	白元
2	形態測定(四肢周径(胸郭拡張差・上腕屈曲伸展・前腕最大最小・大腿・下腿最大最小))	白元
3	関節可動域測定(頸部(屈曲・伸展・側屈・回旋) 体幹(屈曲・伸展・側屈・回旋) 肩甲骨(屈曲・伸展・挙上・下制))	白元
4	関節可動域測定(頸部(屈曲・伸展・側屈・回旋) 体幹(屈曲・伸展・側屈・回旋) 肩甲骨(屈曲・伸展・挙上・下制))	白元
5	関節可動域測定(肩関節(屈曲・伸展・外転・内転・外旋・内旋・水平屈曲・水平伸展))	白元
6	関節可動域測定(肘関節(屈曲・伸展) 前腕(回内・回外) 手関節(背屈・掌屈・橈屈・尺屈))	白元
7	関節可動域測定(股関節(屈曲・SLR・伸展・外転・内転・外旋・内旋))	白元
8	関節可動域測定(膝関節(屈曲・伸展) 足関節(底屈・背屈) 足部(外がえし・内がえし・外転・内転))	白元
9	筋力検査(頭部(屈曲・伸展) 頸部(屈曲・伸展・回旋・複合屈曲・複合伸展・回旋) 体幹(屈曲・回旋・胸部伸展・腰部伸展) 骨盤挙上))	白元
10	筋力検査(頭部(屈曲・伸展) 頸部(屈曲・伸展・回旋・複合屈曲・複合伸展・回旋) 体幹(屈曲・回旋・胸部伸展・腰部伸展) 骨盤挙上))	白元
11	筋力検査(肩甲骨(挙上・外転と上方回旋・下制と内転・内転・内転と下方回旋・下制))	白元
12	筋力検査(肩甲骨(挙上・外転と上方回旋・下制と内転・内転・内転と下方回旋・下制))	白元
13	筋力検査(肩関節(屈曲・肩甲骨面挙上・伸展・外転・外旋・内旋・水平外転・水平伸展))	白元
14	筋力検査(肩関節(屈曲・肩甲骨面挙上・伸展・外転・外旋・内旋・水平外転・水平伸展))	白元
15	筋力検査(肘関節(屈曲・伸展) 前腕(回外・回内) 手関節(掌屈・背屈))	白元
16	筋力検査(肘関節(屈曲・伸展) 前腕(回外・回内) 手関節(掌屈・背屈))	白元
17	筋力検査(股関節(屈曲・屈曲外転外旋・伸展・伸展(大殿筋)・外転・屈曲位での外転・内転・外旋・内旋))	白元
18	筋力検査(股関節(屈曲・屈曲外転外旋・伸展・伸展(大殿筋)・外転・屈曲位での外転・内転・外旋・内旋))	白元
19	筋力検査(膝関節(屈曲・伸展) 足関節(背屈と内がえし・内がえし・外がえし・底屈・底屈(ヒラメ筋)) 足指(複合背屈・複合底屈))	白元
20	筋力検査(膝関節(屈曲・伸展) 足関節(背屈と内がえし・内がえし・外がえし・底屈・底屈(ヒラメ筋)) 足指(複合背屈・複合底屈))	白元
21	感覚検査(表在(触覚・温度覚・痛覚) 深部感覚(位置覚・運動覚・振動覚・二点識別覚))	白元
22	疼痛検査(問診・運動検査・触診検査)、意識障害(Japan coma scale)	白元
23	反射検査(深部反射(上腕二頭筋・上腕三頭筋・腕橈骨筋・円回内筋・胸筋・膝蓋腱・アキレス腱) 病的反射(上肢・下肢))	白元
24	筋緊張検査(視診・触診・プレーシング・被動性検査(肘・手・股・膝・足)・クローヌス・懸振性検査(上肢・下肢)・項部筋緊張))	白元
25	協調性検査(静止時運動失調(ロンベルグ) 移動時運動失調(ワイドベース・継足) 運動時運動失調(鼻指鼻・回内外・踵膝・フットパッド))	白元
26	片麻痺機能検査(Brunnstrom test)	白元
27	整形外科的検査(頸部・上肢・体幹)	白元
28	整形外科的検査(体幹・下肢)	白元
29	高次脳機能検査、脳神経検査(USN(線分末梢・描画)、失認、失行、注意、HDS-R、MMSE、脳神経検査)	白元
30	実技演習	白元

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと(約1時間)。

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと(約1時間)。

【教科書名】

「理学療法評価法」(神陵文庫)

「PT・OTのための測定評価1 ROM測定」(三輪書店)

「PT・OTのための測定評価2 形態測定・感覚検査・反射検査」(三輪書店)

「PT・OTのための測定評価3 MMT -頭部・頸部・上肢-」(三輪書店)

「PT・OTのための測定評価4 MMT -体幹・下肢-」(三輪書店)

【参考図書】

【評価基準】 実技演習70% レポート30%

【実務経験】 理学療法士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加